

CISPR Sydney 会議 SC-H 対処方針および結果

2007/11/28

審議項目	審議内容	我が国の対応	審議結果
1 開会	議長による開会宣言。		
2 議事次第の確認	CISPR/H/158C/DA 当日配布された改定 C 版では新たに項目 4、5、6 が追加された。	確認する。	議事 15 を追加の上、了承された。
3 Stockholm 会議 議事録			
3. 1 議事録確認	CISPR/H/145/RM	確認した。	確認、異議無く了承。
3. 2 前回会議における アクションアイテム	CISPR/H/145/RM	確認した。	処置状況を確認 (ITU への無線業務に関する情報照会に対しては応答無し)。
4. 組織に関する事項			
4. 1 SC-H WG 構成員	IEC Web に登録された構成員の適宜更新を周知。構成員の追加変更は NC を通じて行う様に要請。	IEC の WEB ページにて確認済み。	特に無し。
4. 2 WG1 コンビナー、 副コンビナーについて	Mr. C. M. Verholt の後任を募集。 Mr. A. Griffin (米) がコンビナーに立候補表明。	Mr. A. Griffin の立候補に対しては特に異議なしとして対応。	立候補に関する DC を発行する。
4. 3 回付文書へのコメント 様式について	FORM 8C (IEC) 1998-03-01 NC 名称 (イニシャル) と通し番号を明記、提案を明確に記載することが要請された。	内容を確認。	確認。
5 IEC 事務局からの連絡事項	席上では省略。	無し。	省略。
6 CISPR 全体会議および CISPR S からの指示事項			
6. 1 複数の試験法に対する reference test method について	複数試験法の現状と、各国 NC の意見の把握が必要。複数試験法の範囲・定義、意見照会における質問の文案等について活発に議論	IEC Directive では製品 (群) 規格に対してのみ reference test method を要求しているが、共通エミッション規格においても許	H/WG1 が INF 文書を作成し、現在の共通エミッション規格における代替測定法の現状についてまとめ、CISPR S および各国 NC

	が行なわれた。	容値を定める以上、複数の試験法が存在する場合には reference test method を定めるべきである。	に通知してコメントを求める。
6. 2 共通エミッション規格における測定不確かさの扱い	CISPR 16-4-2 の記載に従って測定不確かさを取り入れるか否か審議。	提案内容を確認。	H/WG1 は共通エミッション規格に CISPR16-4-2 に規定する測定不確かさを採用するか否かの質問を付した DC を準備し、各国 NC に回付する。 (CISPR/H/167/DC 回付中)
6. 3 複数の試験法を導入した際のエミッション許容値	6. 1 項の結果に依存。	6. 1 と同様。	6. 1 項についての結論を待って審議する。
7 共通規格 IEC 61000-6-3 と 61000-6-4 のメンテナンス (WG1、コンビーナ： Mr. C. M. Verholt)	CISPR/H/159/INF		
7. 1 住宅・商業・軽工業環境のエミッション共通規格 IEC 61000-6-3	CISPR/H/149/CD CISPR/H/156/CC 改訂期限(2010年)について議論。 Mr. Almering (オランダ)より反射箱を共通規格の試験法に加える提案があった。	<ul style="list-style-type: none"> WG1(ローマ, ロンドンでの各WG 会議)における審議状況について確認。 ref. test method については必要とする。 反射箱は OATS と測定物理量が異なるため、導入にはさらなる検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 6. 1 項の結果を待つ。 本規格の改訂期限は 2010 であるため、CDV の回付は 2008 年末とすることで合意。 反射箱の提案については許容値の根拠を示した DC を WG1 で準備し、各 NC からのコメントに基づいて以降の方針を決定する。
7. 2 工業環境のエミッション共通規格 IEC 61000-6-4	CISPR/H/150/CD CISPR/H/157/CC	7. 1 と同様。	7. 1 と同様。
8 許容値の根拠 CISPR23 (ISM 機器に対する許容値の決定)および CISPR16-4-4 (苦情統計と許容値計算モデル)のメンテナンス (WG2, コンビーナ：	CISPR/H/WG2/Sydney/02/INF CISPR/H/147/DTR CISPR/H/153/RVC CISPR/H/147/DTR の採択、 CISPR16-4-4 第 2 版発行の報告。 CISPR23 の削除。	<ul style="list-style-type: none"> CISPR16-4-4 第 2 版発行の確認。 	CISPR23 “許容値の根拠”は内容を CISPR16-4-4 第 2 版に移動したため削除。 SC-H/WG2 は任務完了のため解散。CISPR16-4-4 のメンテナンスは新たに発足予定の SC-H/I JTF

Dr. B. Sisoletsky)	WG2 の任務完了。		によって引き継がれる。
9 設置場所測定に関する共通エミッション規格 設置場所測定のための共通エミッション規格 IEC 61000-6-7 の発行に向けた検討 (WG4 のプロジェクト、コッピーナ Prof. Joong-Geun Rhee)	CISPR/H/81/NP CISPR/H/87/RVN CISPR/H/115/Q CISPR/H/119/RQ CISPR/H/151/CD CISPR/H/160/CC CISPR/A/733/DC CISPR/A/742/INF CISPR/H/161/DTR(投票中) CISPR/H/WG4_092 本件に関する SC-A/H の JTF 設立の提案に対する議論。	エルランゲン、ソウルにおける WG での審議結果の確認、日本提案の反映状況を確認する。 日本としては投票段階における JTF の新規設立には反対の立場。	H/WG4 には SC-A のエキスパートも参加していること、すでに投票段階であることから、CISPR/H/161/DTR の再検討は行わない。 投票中の CISPR/H/161/DTR が採択されれば本 DTR に対する JTF 設立は見合わせ、次回のメンテナンスから SC-A/H JTF の作業とする。否決された場合には JTF メンバーを募集し、新たな CD を作成する。
10 無線サービスのデータベース	CISPR 31 過去 2 年間新たなデータ入力がないことが報告された。	特に対応無し。	データ提出を呼びかける文書を回付する。
11 共通規格を超える許容値適正化の記録	CISPR/H/96/RM 本件を中止し、ステージ 0 に戻すことが提案された。	異議無し。	本件はステージ 0 にリセットされる。
12 SC-H の作業プログラムの確認	CISPR/H/162/PW	項目とスケジュールを確認。	・ IEC61000-6-3, 61000-6-4 はメンテナンス期限を 2010 年とする。CDV の回付時期は 2008 年にシフトされる。 ・ CISPR23 については廃止を提案する内容の MCR を作成し各国に回付する。
13 他の SC との連携			
13.1 Reference Site Method の導入について (SC-A)	CISPR/H/148/INF 概要の紹介のみ。	我が国としては基本的に RSM 法の導入を支持している (試験用サイトの適合性確認における不確かさ改善のため)。	

13. 2 広帯域システムからの干渉モデル開発に関するSC-H/SC-I JTFの設立について	CISPR/H152/DC CISPR/H/154/INF	・日本はJTF設置に賛成。2名が参加予定。	2008年2月にキックオフ会合の予定。
14 CISPR SC-H 組織	CISPR/H/146/AC (SC-Hの次期議長について) Mr. Bernard Deprésの貢献に謝意を表明。	確認。	Mr. Bernard Deprésの後任として2007年10月1日よりMr. Beniamino Gorini (Alcatel Italia)がSC-Hの議長を務める。
15 その他	・ Green Document CISPR/S, CISPR/F & CISPR/H (AU) 07-02 (Inverter AC EMI) Mr. Garret (オーストラリア)からACインバータのスイッチング周波数+高調波の伝導妨害波による放送受信機への影響を避けるため150 kHz以下の妨害波測定に関する検討を提案) ・ Mr. Griffin (米)より、CISPR/H/155/INF(1GHz以上の妨害波測定におけるアンテナ高走査)の導入による許容値への影響について議論すべきとの提案。	提案内容を確認。	・ 本件はSC-Hの所掌事項ではないと考えられるため、CISPR Sに申し送って扱いを審議することとする。 ・ SC-Aにおける結論を待って、許容値変更の必要性を審議することとする。
16 次回会議の開催地および日程	次回会合は大阪ワールドトレードセンターにて10/20~10/29で開催予定。	大阪会場の簡単な案内を配布 日本NCを代表して徳田Hグループ主任より開催地大阪について紹介した。	
17 閉会	議長はオーストラリアNCへの謝意を表して閉会を宣言。		閉会